

# 特別支援教育 算数 数学 徹底講座

2023年度

京都市内算数サークル

6月10日(土) 1:30~4:30 (定刻開始します)

会場 京都教育文化センター 地階公益事業室  
(京阪神宮丸太町駅下車5番出口徒歩5分 / 電話075-771-4221)

参加費 1000円 (京都市内算数サークル会員は800円)  
定員 15人

- ※1) メールで事前申込みをしてください。万一中止の時は、メールでお知らせします。
- 2) マスクの着用をお願いします。
- 3) 定員に達していない場合は当日参加も可能ですが、万一中止の場合も連絡ができないことをご了承ください。



## 講師 // 菅田弘久

### <自己紹介>

1963年2月19日、東京神田生まれの江戸っ子。4歳で京都伏見に転居。府立桃山高等学校から大阪教育大学肢体不自由課程に進学。副免として中学校社会の免許を取得。採用試験では府下の僻地校を希望するも受からず…二年間府下の公立高校で「地理」「現代社会」の講師。結婚を機に市内紫明小学校ひまわり学級で常勤講師をする。ここでの自閉症の大ちゃんとの出会いが「障害児教育の喜び」に目覚めるきっかけとなる。翌年京都市の採用試験を受験、伏見の砂川小学校わかば学級に赴任。以後30年以上育成学級担任として勤務。最終勤務校向島小学校在籍時に3年間「現場講師」として、花園大学で「特別支援教育実践講座」を担当。R4年3月をもって定年退職。

### <講座について>

前半は、現場の先生方には是非知っておいてもらいたい知識と、「障害に対する差別」がいかに身近に存在するのと言うことを、自分ごととして一緒に考え今の「生産性重視」「競争主義」教育の課題をともに考えていくきっかけになればと思っています。

後半は「算数」という教科は、障害のある子どもたちに何を目標として教えるものなのか？ということと一緒に考えたいと思います。そのことを考えるにあたり「発達段階」の見極めの重要性も明らかにしていきたいと思っています。また「数」はどのように始まるのか？どうして数え出すのか？「0(無い)」から「1(有る!)」になる課程を授業の中でどのように展開できるのか？実践例などをもとに考えていきましょう。

1:15 受付

1:30

《前半》自己紹介・本日の趣旨説明！  
『障害者差別を考える』

- ①「相模原事件」を振り返り、人類史的に見て「障害者差別」の源流を考えていこうと思います。
- ②現在私たちの身の回りにある障害者に対するシビアな差別と、それに自身が直面したときにどうする？を一緒に討論し考えていきたいと思っています。

2:45

休憩

3:00

《後半》育成学級の算数の授業  
を考えるⅠ 本日の趣旨説明！

- ①様々な技法が乱れ飛ぶ障害児教育の教科学習の現場。まずは「発達段階」を正しく見極めることの大切さを一緒に考えましょう。
- ②「かぞえること」すなわち「0」から「なんかある！一つある、二つある！」に向かう段階の子の授業をどう作る？

4:30

<申し込み・問い合わせ> 本田陽一  
〒606-8411 京都市左京区浄土寺東田町37-9  
TEL・FAX・留守電 075-761-3590  
Eメール honda-kyoto@sky.plala.or.jp